

全国ポリオ会連絡会の会報が 50 号に到達!!!!

皆さま、ありがとうございます。ご苦労様でした。

全国ポリオ会連絡会 運営委員
ポリオネットワーク代表 柴田多恵

「わあーっ、50 号。すごい!! でも、ちょっとやり過ぎちゃったかな。はずかしいな。」これが、全国ポリオ会連絡会を作ろうと発案した「おっちょこちょいの柴田」の一番の感想。

次に心に浮かんだことは、「たくさんの人と会えてよかった。幸せだった」。

その次に思ったことは、「ポストポリオを全国に広報できて、みんなの不安を少しでも軽くできたことは、本当によかった」。

そして、そして、最後に思ったことは、「理解してくれる多くの医療関係者と知り合え、安心して受診できる病院がたくさん見つかってよかったなあ」でした。

続けてきて、本当によかったです。私たちは、みんなでよくここまでやってきたと思います。支えてくれた会員一人一人と手を取り合い、「ありがとうございました。ご苦労様でした」と声を掛け合いたい気持ちです。

第一号の会報はこれです。B5 判で、手作り感満載の拙いものでした。木口助成財団で 100 万円が当たり、最初の本を出版しました。その本が、ものすごい勢いで売れ、増刷に増刷を重ねて 3700 冊に到達。その本の置き場所と発送の拠点を持たなくてはと、はじめて事務所を開いたというお知らせの会報でした。思えば、あの頃の私達の会は「ポリオの女性の会」でした。今では、「まあそうだったの。……」と笑われてしまいそうですが、私は神戸で 20 人くらいの、こじんまりとした親睦会がしたかっただけだったので、「ポリオの女性の会」でスタートしたのです。

全国に、次々と会ができ、ものすごい勢いで会員が増えていったあの頃、家と事務所を往復する間、車の中で私がずっと聞いていたのは、プリンセスプリンセスの「ダイヤモンド」でした。今でもこの歌を聞くと、爆発的に会員が増えていた、あの頃のすごい勢いと、ポリオという障害をすっきり受け容れ、すっくと顔をあげ、まっすぐ前を向くようになった私自身を思い出します。会が発展していく躍動感と、私の解放感が重なって思い出されるのです。

冷たい泉に素足をひたして見上げるスカイクレイパー
好きな服を着てるだけ悪いことしてないよ
金のハンドルで街を飛び回れ楽しむことに釘づけ
ブラウン管じゃわからない景色が見たい



針が下りる瞬間の胸の鼓動焼き付けろ
それは素敵なコレクションもっともっと並べたい
眠たくても嫌われても年をとってもやめられない
ダイヤモンドだね アア いくつかの場面
アア うまくいえないけれど宝物だよ
あの時感じた アア 予感 は本物
アア 私を動かしてるそんな気持ち

「ブラウン管じゃわからない景色」は、「自分はポリオだということを宣言し、新聞にも打って出て、堂々とみんなの前に立ってみて、はじめてわかった景色」。
その生き方は、まさしく「金のハンドル」。
「あの時感じた予感」は、たくさんの人からの相談電話を受けながら、この会は、みんなに待たれていたんだと実感したとき、「本物」になりました。
「金のハンドル」で私は伸び伸びと街を飛び回り、たくさんのポリオの方々と触れ合いました。その一つ一つの場面が、わたしにとっては、まさしく「ダイヤモンド」。それに突き動かされて、私は、あの頃、むちゃくちゃ頑張ったと思います。



2009 年全国ポリオ会

一人でも多く、同じポリオの後遺症を持つ仲間の役に立ちたいと切に思います。

今から思えば、本当にすごく幸せな人生の一コマだったと思います。

今は、年もとり、そこまでの弾むような気持ちはなくなりましたが、根底に流れる気持ちは一緒です。私は、今も、ポリオの方からの相談電話を受けると、その方にとって役に立つ情報をぜひ教えてあげたいと、一途な気持ちになります。そして、

神戸で、ポリオの会をしませんかと声を上げたとき、私は 39 歳でした。そして、今は 61 歳です。年をとりました。会員の皆様も年をとりました。会の目標も少しずつ変わっていくかもしれませんが、これからも手を携えて、一緒に歩いていけたらと思います。
歌詞にもありますが、「年をとっても、やめられない」です。
これからも、なにとぞよろしくお願いいたします。